

第二に、子供の健康を守ることはそれ自体として重要であり、親の所得が低いために子供が医療サービスを受けられなかったり健康的な生活が送れなかったりして健康を害していないかどうか検証する必要がある。先行研究では、子供のときの健康状態が悪かった人は大人になっても健康に問題があることが多いとされている。さらに、子供のときに健康に問題があると十分な教育が受けられず、労働者としての能力が低くなるという指摘もある。つまり、子供の健康を守ることは本人の人生のために重要であるだけでなく、国の医療支出を抑え、労働力の質を高める上でも重要である。

アメリカ・イギリス・オーストラリアのマイクロデータに基づく先行研究では、親の所得が高い子供ほど健康状態が良く、しかも子供の年齢が高くなるほどその傾向が顕著になるとされている。日本について同様の研究はまだ存在していないため、日本でも同様の傾向が見られるか検証する。

親の所得が子供の医療利用にどのような影響を与えるかについては、二つの全く異なる可能性が考えられる。一つは、親の所得が子供の健康状態に影響を与えるために、親の所得が子供の健康状態を通じて子供の医療利用に影響するという仮説である。この仮説に従えば、低所得の親の子供は健康状態が悪いためにより多く医療サービスを利用するということになる。もう一つは親の所得が子供の医療利用に直接影響するという仮説である。子供に対する医療サービスが他の多くの財と同様に正常財（上級財）であるとすれば、所得が高い親ほど子供に対する医療サービスを多く需要・消費すると考えられる。この仮説によれば、子供の健康状態が同じであれば親の所得が高い子供ほど多く医療サービスを利用することになる。この二つの影響のうちどちらがより大きいかを検証する。

B. 研究方法

国民生活基礎調査の大規模調査、ならびに国民健康保険医療給付実態調査を利用して、様々な子供の属性、特に親の所得が子供の健康状態と医療サービス利用に及ぼす影響を統計的に検証する。国民生活基礎調査の大規模調査では、全ての子供の健康状態と医療利用、及び本人とその家族の属性についての詳細な情報を得ることができる。国民健康保険医療給付実態調査では入院、外来、歯科診療の一个月分の診療について、性別、年齢、所得水準、居住地、主要疾病、疾病数等の患者属性と、保険点数、診療実日数、診療開始からの月

数等のサービス利用内容が記録されている。患者属性と医療サービス利用の関係を見るうえでは、このデータが最も適していると考えられる。

C. 研究結果

ここではまず、国民生活基礎調査にもとづく研究成果について述べ、次に国民健康保険医療給付実態調査にもとづく研究成果について述べる。

（１）国民生活基礎調査による分析内容 データの概要

本分析では、所得票を含めた国民生活基礎調査の対象となった世帯の15歳以下の子供のうち、以下の条件を満たしている者を分析対象とした。

- ① 母親と同居している。
- ② きょうだいの数が2人以下である。
- ③ 両親・きょうだい以外の人間と同居していない。
- ④ 19歳以上のきょうだいと同居していない。

このうち①および②は、例外的ケースを除外するための条件である。母親と同居していない子供は全体の1%に過ぎず、また2008年に行われた第四回全国家庭動向調査によれば、母親のうち子供が4人以上いる割合は3.4%に過ぎない。③は主に祖父母と同居している子供（全体の17%）を除外するための条件である。本研究のために調査票情報の利用を申請した時点では祖父母の特性が子供の健康や医療利用に与える影響についても分析する予定であった。しかし、祖父母の経済状況を測るには現在の所得水準ではなく資産保有を用いるほうが適切であるのに対し、先行研究と同じ枠組みで分析を行うには所得を用いることが望ましい。そのため、分析対象を祖父母と別居している子供に限定した。④については、成人したきょうだい同居している場合、その所得が子供のために使われるのかわからないため、そのようなケースを除外した。

これに加え、入院していない子供にサンプルを限定した。これは、入院の有無が不明な子供が1.3%おり、入院中とされた子供の割合0.7%よりも多く、また入院中であつたり入院の有無がわからなかったりする子供はその他の調査項目についても不明な点が多いためである。さらに、年齢・性別・自覚症状の有無・通院通所の有無・両親の所得・両親の就業状態がわからない子供はサンプルから除外した。これらの（①～④以外の）条件によって除外されたのは全体の4%である。

表1は、本分析に用いたサンプルの要約統計である。主観的健康状態・就床の日数・日常生活への影響の有無、等に関しては6歳以上にのみ質問されている。実際には6歳児については不回答が多かったため、これらの変数については7歳以上の子供の情報のみを利用した。回帰分析でこれらの変数を被説明変数とする場合にはサンプルを7歳以上に限定するため、サンプル全体と7歳から15歳のサンプルそれぞれについて要約統計を示した。

表の最初に示されている通り、1998年から2007年にかけてサンプル数が減少しており、特に2001年から2004年にかけての減少が著しい。これは主に回収率の減少によるものであり、2003年の個人情報保護法の成立に象徴されるようにプライバシー保護の観点から調査に協力する世帯が減少したことによると考えられる。本分析のために調査票利用を申請した時点では経時変化についての分析も行う予定であったが、回収率の減少によって調査に協力した世帯の観察できない特性にも変化が生じた可能性があることから、調査時点間の比較分析は行わないことにした。

次に、父母の所得と子供の年齢区分ごとの子供の健康状態と医療利用状況を表2に示した。先行研究では、米国・英国・豪州で、親の所得が子供の健康状態に正の影響を与え、子供の年齢が高いほどこの影響が増大することが示されている。結果の国際比較を行うため、年齢区分や父母の所得区分の分け方については先行文献を踏襲した。 $\ln(\text{父母の所得})$ は父母の所得の自然対数値である。これを見ると、まず、自覚症状についてはどの年齢層においても所得と自覚症状との関係はあまり明確ではない。通院の有無や3カ月以上の通院の有無については、どの年齢層においても所得と正の関係があるように見受けられる。一方、主観的健康観については、どの年齢層でも「よい」と答える割合が所得とともに増加している。3日以上就床の有無についても所得とともに減少しており、所得と健康状態の間に正の相関があることを示している。日常生活や仕事・家事・学業への影響については、所得との間に明確な関係は見られない。

最後に、調査年ごとの子供の健康状態と医療利用状況を表3に示した。日常生活への影響や3日以上就床については1998年とそれ以降の間で大きな変化が見られるが、これが日本全体の変化に

よるものか、それとも前述したように回収率減少によってサンプリングバイアスが增大したためかは判別できない。

推定モデル

さまざまな子供とその家族の属性、特に親の所得が子供の健康状態と医療利用にどのような影響を与えているか考察するため、子供の健康状態と医療利用状況を表すさまざまな指標を被説明変数とし、子供とその父母のさまざまな属性を説明変数とする回帰分析を行う。観察単位は調査対象となった世帯に属する15歳以下の子供である。

まず、総合的な健康状態の指標として主観的健康状態、就床の日数、日常生活への影響の有無の3つを用いて回帰分析を行う。これらに加えて、症状や疾病によって親の所得の影響が異なる可能性があるため、さまざまな自覚症状の有無、ならびにさまざまな傷病の有無についてそれぞれ回帰分析を行う。医療利用状況を表す変数としては、通院の有無と通院期間を用いる。これらの指標は先行研究で多く利用されており、先行研究との比較を行う上でもこれらを使用する必要がある。なお、本分析のために調査票情報の使用を申請した時点では、仕事・家事・学業への影響の有無と入院の有無についても分析を行う予定であったが、これらについては欠損値が多かったため分析対象から除外した。

先行研究との比較を行うため、説明変数の選択については海外の先行文献を踏襲した。すなわち、調査年、子供の性別・年齢、親の所得、家族構成、父母の年齢・雇用状況を表す説明変数を含めた。本研究のために調査票情報の利用を申請した時点では親の健康状態を表す変数も説明変数に含める予定であったが、国民生活基礎調査の健康についての情報はどれも主観的であり、親の主観バイアスによって親と子の健康を表す変数に相関が生じる可能性があるため先行研究で指摘されているため、親の健康状態を表す変数は説明変数から除外した。先行研究を踏襲し、サンプルを年齢区分により分割してそれぞれ別個に推定を行った。分析対象は15歳以下の子供であるが、7歳以上の調査対象者についてのみ利用可能な変数を被説明変数とする分析では、サンプルを7歳以上に限定した。

0または1のどちらかの値をとる被説明変数については、二項プロビット分析による推定を行う。日常生活への影響の有無、自覚症状の有無、傷病の有無、何らかの医療機関への通院の有無、各種

医療機関への通院の有無、がこれに相当する。解答が三つ以上のカテゴリーに分けられている被説明変数については、ordered probit による推定を行う。主観的健康状態（よい：1、まあよい：2、ふつう：3、あまりよくない：4、よくない：5）、就床の日数（0日：1、1-3日：2、4-6日：3、7-14日：4、15日以上：5）、ならびに通院期間（1週間未満：1、1週間以上1カ月未満：2、1か月以上3カ月未満：3、3か月以上6カ月未満：4、6か月以上1年未満：5、1年以上5年未満：6、5年以上10年未満：7、10年以上：8）がこれに相当する。ordered probit を用いるのは、カテゴリーの分け方が数値の大きさと線形の関係にはないなど、ある意味では恣意的だと考えられるためである。また、カテゴリーが三つ以上ある場合には二項プロビットよりも ordered probit のほうがより精緻な統計分析ができることが知られている。

推定結果

まず、総合的な健康状態を表す指標についての結果から見ていこう。主観的健康状態を被説明変数とする順序ロジットの推定結果を表4に示した。所得対数値（両親の所得の自然対数値）の係数は米英・豪州の先行研究と同様にどの年齢層においても負かつ有意である。主観的健康状態は数値が大きいほど健康状態が悪いことを意味するので、所得が高いほど健康状態が良いことになる。しかし、係数の大きさは年齢が高いサンプルでむしろ小さくなっており、これは米英・豪州の先行研究とは逆の結果である。すなわち、他の先進国では所得が子供の健康状態に与える正の影響は子供の年齢が高くなるほど大きくなるのに対し、日本ではその逆である。

次に日常生活への影響の有無を被説明変数とするロジットの推定結果を表5に示した。どの年齢層においても所得対数値の係数は小さく、統計的に有意ではない。

さらに、就床日数を被説明変数とする順序ロジットの推定結果を表6に示した。まず、所得対数値の係数はどの年齢層においても負であり、7歳から15歳全体では有意水準10%で有意である。就床日数が長いほど健康状態が悪いことを意味するので、所得が高いほど健康状態が良いことになる。この結果は米英・欧州の先行研究と整合的である。しかし、係数の絶対値の大きさが年齢とともに増加するという先行研究の傾向はここでは見られない。

さまざまな自覚症状の有無を被説明変数とするロジット分析の推定結果を表7に示した。まず、何らかの自覚症状の有無を被説明変数とする推定では、所得対数値の係数は統計的に有意ではない。カテゴリー別の分析でも、所得対数値の符号は多くのカテゴリーで統計的に有意でないが、耳・呼吸器・歯については負かつ有意、皮膚・尿路性器系・損傷については正かつ有意である。すなわち、所得が高いほど耳・呼吸器・歯の自覚症状があると答える確率が低く、皮膚・尿路性器系・損傷の自覚症状があると答える確率が高い。

以上は健康状態についての分析であるが、次に医療利用についての分析結果を見てみよう。まず、さまざまな通院中の傷病の有無を被説明変数とするロジット分析の推定結果を表8に示した。通院の有無を被説明変数とする推定では、所得対数値の係数は正かつ有意である。カテゴリー別の分析では、所得対数値の符号は多くのカテゴリーで統計的に有意でないが、アレルギー性鼻炎と皮膚・皮下組織については正かつ有意である。すなわち、所得が高いほど調査時点で通院している確率が高く、特にこの二つの傷病でそれが顕著である。

次に、各種医療機関への通院の有無を被説明変数とするロジット分析の結果を表9に示した。所得対数値の係数は、診療所への通院の有無については正かつ有意であるが、病院への通院の有無については、符号は同様に正であるものの統計的に有意ではない。すなわち、親の所得が高いほど子供が診療所に通院する確率が高いが、病院に通院する確率は所得によって変化しない。

最後に、調査時点で通院中の子供のみを対象に、最も長く通っている傷病での通院期間を被説明変数とする順序ロジット分析を行い、結果を表10に示した。所得対数値の係数は正かつ有意である。すなわち、両親の所得が高い子供ほど継続的に通院する傾向がある。

（2）国民健康保険医療給付実態調査による分析内容

データ

本分析の観察単位は、市区町村組合に加入している15歳以下の患者が調査年の調査月（5月）に診療を受けた際のレセプト情報から抜粋された、国民健康保険医療給付実態調査の調査票である。次の4つの疾病分類についてはサンプルから除外した。

① 妊娠・分娩及び産じょく

- ② 周産期に発生した病態
- ③ 先天奇形・変形及び染色体異常
- ④ 症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

上のうち①から③は稀であると同時に母親の過去の健康状態による影響が大きく、所得の内生性が生じる可能性があるため除外した。④は稀であるとともに多様性が高いと考えられるため除外した。

国民健康保険医療給付実態調査では、一般診療による入院、一般診療による外来受診、歯科の三種類のレセプトが調査対象となっているため、これらの種類によってサンプルを分割する。また、国民健康保険医療給付実態調査で利用可能な情報は調査対象となった1ヶ月間のレセプトのみで、月をまたいで入院したり通院を続けたりした場合であってもその前後のレセプトは入手できない。入院や診療開始が当該月より前か当該月かによって変数の値が大きく異なる可能性を考慮し、診療開始時期が当該月のレセプトだけを集めたサンプルと、全てのレセプトを含むサンプルにさらに二分して分析を行う。

表 11 は、本分析に用いたサンプルの要約統計である。最近の調査年ほど入院のサンプルに占める比率が少なくなっており、年を追うごとに入院件数が少なくなっていることがわかる。外来・歯科についてはこのような傾向は見られない。また、前年度家計所得や税控除の割合から、低所得世帯の割合が少なくないことがわかる。さらに、入院・外来ともに呼吸器疾患が半数近くを占めており、呼吸器疾患の中では気管支炎と喘息の比率が高い。

表 12 は、前年度世帯所得区分ごとの子供の医療状況を表している。理想的には親の所得、もしくは世帯員一人当たりの所得によって子供の医療利用状況に違いがあるかを検証したいが、国民健康保険医療給付実態調査では親の所得や世帯員数についての情報はない。そのため、祖父母が世帯員に含まれる場合には親の所得だけでなく祖父母の所得も世帯所得に含まれるという問題はあるものの、まず世帯所得によって子供の健康状態を比較する。世帯所得区分の分け方については、海外の先行文献を踏襲した。まず、診療点数については両方のサンプルとも、入院については所得と共に増加し、逆に外来・歯科については所得と共に減少している。当該月の診療実日数と診療開始か

らの月数については、所得との関係は不明確である。入院月数については、所得が高いほど顕著に短くなっている。

表 13 は、市区町村民税の課税状況ごとの子供の医療状況を表している。市町村民税の課税の有無は前年度の世帯の経済状況によって決定される。世帯所得を親の所得の指標として用いることには前述のような問題があるため、それを補うべくここでは別の指標を用いる。まず診療点数は、どちらのサンプルでも入院については非課税世帯のほうが課税世帯より高く、逆に外来・歯科については非課税世帯のほうが課税世帯より低い。当該月の診療実日数については、どちらのサンプルでも課税状況による顕著な差はない。診療開始からの月数を見ると、入院・外来・歯科ともに非課税世帯のほうがやや長い。入院月数については非課税世帯のほうが顕著に長くなっている。

表 14 は、子供の医療利用状況の時系列での推移を示している。外来と歯科の当該月の診療日数に関しては年を追うごとに減少する傾向が見られるが、他には顕著な変化は見られない。

推定モデル

さまざまな子供の属性と家庭の経済状況が子供の医療利用にどのような影響を与えているか考察するため、子供の医療利用状況を表すさまざまな指標を被説明変数とし、子供の属性と世帯の経済状況の指標を説明変数とする回帰分析を行う。観察単位は 15 歳以下の患者についての調査票である。医療利用を表す被説明変数としては、調査月に治療が開始された患者の調査月の診療点数、治療月数（診療開始からの月数）、入院月数を用いる。治療月数は、同一医療機関で国民健康保険の被保険者として継続的に治療を受けた期間を表す。

世帯の経済状態を表す説明変数としては、世帯所得と市町村民税の課税の有無を用いる。患者の病状を限定的ではあるがコントロールした上で世帯の経済状況が医療利用に与える影響を分析するため、説明変数に患者の性別ダミー、年齢ダミー、主要疾病分類ダミーと疾病数を含める。また、技術進歩や病院・医師等の医療供給者の多寡等の医療の供給側の要因をコントロールするために、年別ダミーと都道府県ダミーを説明変数に含める。

それぞれの被説明変数に対して、被説明変数の自然対数をとった最小二乗法による回帰分析（対数回帰分析）と、被説明変数の自然対数をとらない最小二乗法による回帰分析（回帰分析）の両方

を行う。さらに、疾病数と主要疾病分類ダミーを含めたモデルと含めないモデル両方を推定する。これは、患者の重症度をコントロールすると経済状況を表す変数の係数がどのように変化するか見ためである。

一般診療による入院、一般診療による外来受診、歯科の三種類にサンプルを分割し、サンプルごとにそれぞれ別個に回帰分析を行う。入院と外来については、喘息患者のみのサンプルについても推定を行う。これは、先行研究で経済状況が子供の喘息治療に与える影響が特に注目されていることに加え、本分析のサンプルでも喘息による入院件数が入院件数全体の約15%を占めているためである。

推定結果

診療点数の回帰分析による推定結果は表15から表17に、対数回帰分析による推定結果は表18から表20にそれぞれ示されている。総じて、入院については世帯の経済状況と点数の関係はあまり明確ではない。外来については、家計所得は点数に負の影響を及ぼしており、特に疾病数・疾病ダミーを説明変数に含まない場合にこの傾向が強い。したがって、世帯所得が低い子供ほど治療開始月の外来の点数が高く、それは主に病状がより重いことによると考えられる。さらに、歯科については、疾病数・疾病ダミーを含む・含めないに関わらず、対数家計所得の係数が負かつ有意、非課税世帯ダミーの係数が正かつ有意であり、経済状況が苦しい世帯の子供ほど治療開始月の歯科の点数が高く、それは主に病状がより重いことによることを示している。

入院月数の回帰分析による推定結果は表21に、対数回帰分析による推定結果は表22にそれぞれ示されている。総じて、家計所得対数値の係数が負、非課税世帯ダミーの係数が正であり、特に疾病数・疾病ダミーを説明変数に含まない場合にこの傾向が強い。これは、家計の経済状況が苦しい子供ほど入院期間が長く、それは主に重症度が高いためであることを示している。

治療月数の回帰分析による推定結果は表23から表25に、対数回帰分析による推定結果は表26から表28にそれぞれ示されている。入院については世帯の経済状況と子供の治療期間の間に明確な関係は見られない。しかし外来については、疾病数と主要疾病分類をコントロールしたモデルでは、家計所得は治療期間に正の影響を及ぼしている。

したがって、疾病数と疾病分類が同じ子供の間で比較すると、世帯所得が高い子供ほど長く治療を受けていることになる。特に喘息の外来治療についてこの傾向が顕著である。さらに、歯科については、疾病数・疾病ダミーを含む・含めないに関わらず、対数家計所得の係数が正かつ有意であり、世帯所得が高い子供ほど治療期間が長いことがわかる。

D. 考察 及び E. 結論

本分析では、親の経済状態が子供の健康状態と医療サービス利用に及ぼす影響を統計的に検証した。国民生活基礎調査の調査票情報を用いた分析では、親の所得と子供の健康状態・通院状況との関係が明らかになった。日本でも他の先進国と同様に、親の所得が高い子供ほど健康状態が良い傾向がある。しかし、子供の年齢が高くなるほど親の所得の影響が大きくなるという海外の先行研究の指摘は日本に関しては全く当てはまらない。また、親の所得が高いほど子供の通院も多い傾向がある。特に、アレルギー性鼻炎と皮膚・皮下組織の病気など命にかかわることの少ない症状で、病院ではなく診療所に通院する場合にこの傾向が顕著である。また、通院中の子供の中で比較すると、親の所得が高い子供ほど通院期間が長く、継続的に治療を受ける傾向が強い。

国民健康保険医療給付実態調査の調査票情報を用いた分析では、世帯所得と子供の医療利用状況との関係がさらに明らかになった。まず、同様の疾病数・疾病分類で比較すると、世帯所得が高い子供ほど歯科や外来の治療期間が長い。これは国民生活基礎調査にもとづく分析結果と整合的である。一方、入院期間については世帯所得が高い子供ほど短い。さらに治療開始月の診療点数については、世帯所得が低い子供ほど治療開始月の外来及び歯科の点数が高いが、同様の疾病数・疾病分類で比較した場合にはそのような傾向が少なくなる。

これらの結果を総合すると、次のように解釈できる。低所得世帯の子供ほどより重い症状になってから医療機関を受診するため外来と歯科の治療開始月の医療費が高額になるが、外来治療や歯科治療を継続しない傾向がある。また、低所得世帯の子供が入院した場合には、受診時の重症度が高いために入院期間が長くなる。世帯所得が低いほど子供の健康状態が悪い傾向が見られるのは、低所得世帯の子供が医療機関への通院による治療を

十分に受けていないことにその一因があると考えられる。

特に憂慮されるのは、低所得世帯の子供の喘息治療および歯科治療である。特に外来治療を継続して症状をコントロールすることが重要であるとされる喘息治療について、所得水準が低いほど外来での治療期間が顕著に短くなっている。米国などの先行研究では適切な治療を受けていれば多くの場合は喘息による入院は避けられると指摘されているが、国民健康保険の市町村組合の15歳以下の被保険者による入院のうち喘息を主要疾病とするものが15%近くを占めており、外来治療の強化が期待される。また歯科については、親の所得が低い子供ほど歯の自覚症状がある確率が有意に高いが、歯科の通院治療を受けている確率は親の所得には影響を受けていない。さらに、世帯所得の低い子供ほど歯科の治療開始月の医療費が有意に高く、しかも治療期間が有意に短い。子供時代の歯の健康はその後の健康状態に多大な影響を及ぼすと指摘されており、低所得世帯の子供の歯科治療の充実や生活習慣の改善等が望まれる。

世帯の経済状況によって子供の医療受診状況に上述したような違いが生じる理由は複数考えられる。医療費の自己負担が低所得者ほど重く感じられるという説明もできるが、それに対しては次のような反論が可能である。低所得世帯の子供ほど医療機関の受診が遅く、通院期間も短いという結果があるが、受診の遅れや治療途中で通院停止によって症状が悪化すればさらに医療費がかさむ可能性がある。そのような金銭的リスクを避けるインセンティブは所得が低いほどむしろ高いとすれば、低所得世帯ほど早期治療に熱心なはずである。別の説明としては、所得水準の低い親ほど教育水準が低いなどの理由で、子供の健康問題に気付きにくく、医療機関受診の必要性も認識していない可能性も考えられる。これらの仮説の検証についてはさらなる分析が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録情報

なし

I. 特許取得

なし

注：国民生活基礎調査の調査票情報は平成22年10月6日初統1006第3号によって、国民健康保健医療給付実態調査の調査票情報は平成22年9月29日初保0929第5号によって、それぞれ使用が許可された。

表1 要約統計

	0-15 歳		6-15 歳	
	平均	分散	平均	分散
1998 年	0.308	0.462	0.314	0.464
2001 年	0.284	0.451	0.286	0.452
2004 年	0.210	0.407	0.204	0.403
2007 年	0.198	0.399	0.196	0.397
年齢	7.460	4.539	10.931	2.577
性別	0.511	0.500	0.513	0.500
主観的健康状態*				
よい			0.462	0.499
まあよい			0.189	0.391
ふつう			0.291	0.454
あまりよくない			0.026	0.158
よくない			0.002	0.043
不明			0.030	0.171
就床の日数*				
ない			0.905	0.293
1～3 日			0.059	0.235
4～6 日			0.006	0.079
15 日以上または 7 日～14 日未満			0.002	0.049
15 日以上			0.001	0.031
不明			0.027	0.161
日常生活への影響*				
有無			0.043	0.202
不明			0.021	0.143
仕事・家事・学業への影響の有無*			0.012	0.109
自覚症状				
何らかの自覚症状の有無	0.241	0.428	0.211	0.408
全身症状・神経の自覚症状の有無	0.054	0.226	0.049	0.216
眼の自覚症状の有無	0.008	0.089	0.013	0.112
耳の自覚症状の有無	0.008	0.087	0.008	0.089
胸部の自覚症状の有無	0.002	0.045	0.003	0.056
呼吸器系の自覚症状の有無	0.144	0.351	0.104	0.305
消化器系の自覚症状の有無	0.030	0.171	0.028	0.165
歯の自覚症状の有無	0.015	0.120	0.017	0.131
皮ふの自覚症状の有無	0.057	0.233	0.045	0.207
筋骨格系の自覚症状の有無	0.012	0.111	0.022	0.146
手足の自覚症状の有無	0.003	0.055	0.005	0.068
尿路性器系の自覚症状の有無	0.003	0.056	0.005	0.071
損傷の自覚症状の有無	0.024	0.152	0.030	0.170
その他の自覚症状の有無	0.013	0.112	0.013	0.113
不明	0.001	0.033	0.001	0.033

* 6 歳以上のみが回答

表1 要約統計 (続き)

	0-15 歳		6-15 歳	
	平均	分散	平均	分散
通院の有無	0.183	0.387	0.166	0.372
通院の理由となった傷病				
糖尿病	0.001	0.024	0.001	0.025
糖尿病以外の内分泌・代謝障害	0.001	0.036	0.001	0.033
精神・神経の病気	0.002	0.040	0.002	0.048
眼の病気	0.004	0.059	0.003	0.059
耳の病気	0.014	0.117	0.006	0.080
循環器系の病気	0.004	0.064	0.003	0.057
急性上気道炎・急性鼻咽頭炎(かぜ)	0.027	0.161	0.010	0.097
アレルギー性鼻炎	0.028	0.165	0.034	0.182
喘息	0.023	0.149	0.020	0.141
その他の呼吸器系の病気	0.008	0.090	0.005	0.074
消化器系の病気	0.002	0.050	0.002	0.046
歯の病気	0.033	0.179	0.036	0.186
皮ふ・皮下組織の病気	0.039	0.193	0.029	0.169
筋骨格系の病気	0.003	0.054	0.005	0.071
尿路性器系・泌尿生殖系の病気	0.001	0.037	0.002	0.039
外傷・損傷	0.010	0.101	0.015	0.123
貧血・血液の病気	0.001	0.033	0.001	0.035
悪性新生物(がん)	0.000	0.015	0.000	0.016
その他	0.020	0.139	0.020	0.141
最も長く通っている傷病での通院期間**				
1 週間未満	0.817	0.387	0.835	0.371
1 週間以上 1 月未満	0.025	0.155	0.018	0.132
1 月以上 3 月未満	0.034	0.181	0.028	0.166
3 月以上 6 月未満	0.021	0.143	0.019	0.136
6 月以上 1 年未満	0.011	0.103	0.008	0.088
1 年以上 5 年未満	0.016	0.125	0.009	0.093
5 年以上 10 年未満	0.048	0.214	0.039	0.193
10 年以上 20 年未満	0.026	0.159	0.042	0.201
不明	0.003	0.055	0.003	0.054
以下の医療機関への通院の有無***				
診療所	0.100	0.300	0.091	0.287
大学(付属)病院	0.010	0.099	0.008	0.089
地域の比較的大きな病院	0.038	0.192	0.034	0.181
その他の病院	0.029	0.167	0.027	0.161
施術所	0.004	0.059	0.005	0.070
不明	0.002	0.045	0.002	0.048

** 平成 19 年度を除く

*** 平成 10 年度のみ

表 1 要約統計 (続き)

	0-15 歳		6-15 歳	
	平均	分散	平均	分散
家族構成				
父親有	0.945	0.229	0.925	0.264
子供の数	1.988	0.680	2.038	0.679
父母の属性				
父親の年齢	38.937	6.700	42.377	5.485
母親の年齢	36.532	5.869	39.652	4.776
父親の所得	575.971	352.414	623.032	388.445
母親の所得	89.745	168.399	110.757	186.889
父親の就業の有無	0.990	0.101	0.988	0.111
父親の就業状態不明	0.000	0.013	0.000	0.014
母親の就業の有無	0.498	0.500	0.599	0.490
母親の就業状態不明	0.000	0.021	0.000	0.021
父親の主観的健康状態	2.320	0.995	2.361	0.986
父親の主観的健康状態不明	0.007	0.082	0.007	0.085
母親の主観的健康状態	2.381	0.990	2.411	0.985
母親の主観的健康状態不明	0.005	0.073	0.006	0.075
父親の抑うつ度****	2.865	4.009	3.053	4.190
父親の抑うつ度不明	0.055	0.228	0.062	0.241
母親の抑うつ度****	3.506	4.206	3.774	4.414
母親の抑うつ度不明	0.042	0.199	0.047	0.212

**** 平成 19 年度のみ

表 2：所得・年齢別の健康状態

年齢区分 ln(父母の所得)	7-9 歳				10-12 歳				13-15 歳			
	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17
	0.514	0.512	0.524	0.558	0.472	0.472	0.497	0.507	0.386	0.403	0.424	0.412
主観的健康状態	0.029	0.016	0.025	0.018	0.018	0.027	0.028	0.025	0.039	0.050	0.035	0.036
よい												
あまりよくない・よくない												
日常生活への影響												
有無	0.034	0.031	0.037	0.035	0.046	0.044	0.045	0.038	0.060	0.055	0.049	0.046
不明	0.025	0.025	0.032	0.029	0.016	0.018	0.015	0.018	0.030	0.020	0.014	0.012
仕事・家事・学業への影響の有無*	0.014	0.011	0.014	0.009	0.010	0.010	0.009	0.012	0.015	0.017	0.013	0.012
3 日以上の就床	0.115	0.084	0.072	0.072	0.067	0.075	0.067	0.053	0.075	0.084	0.061	0.050

* 平成 19 年度を除く

表 2：所得・年齢別の健康状態と医療利用状況（続き）

子供の年齢 ln(父母の所得)	0-3 歳				4-8 歳				9-12 歳				13-15 歳			
	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17	14-15	15-15.5	15.5-16	16-17
自覚症状																
何らかの自覚症状	0.30	0.29	0.29	0.26	0.26	0.25	0.26	0.24	0.19	0.22	0.22	0.19	0.21	0.20	0.21	0.21
全身症状・神経	0.08	0.07	0.07	0.06	0.05	0.05	0.04	0.03	0.05	0.04	0.04	0.04	0.08	0.07	0.06	0.06
眼	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01
耳	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01
胸部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
呼吸器系	0.22	0.20	0.22	0.19	0.17	0.16	0.16	0.14	0.11	0.12	0.11	0.09	0.08	0.09	0.08	0.08
消化器系	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03
歯	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
皮膚	0.07	0.08	0.08	0.08	0.07	0.06	0.07	0.07	0.04	0.04	0.05	0.05	0.02	0.03	0.04	0.03
筋骨格系	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.01	0.02	0.01	0.05	0.05	0.04	0.04
手足	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01
尿路性器系	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.01	0.01	0.01
損傷	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04
その他	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
3 か月以上の通院 以下の医療機関への通 院*	0.083	0.086	0.088	0.087	0.119	0.119	0.129	0.115	0.085	0.093	0.108	0.113	0.078	0.080	0.080	0.082
診療所	0.056	0.104	0.101	0.097	0.099	0.128	0.137	0.113	0.060	0.083	0.105	0.110	0.064	0.054	0.070	0.063
大学（付属）病院	0.017	0.015	0.011	0.014	0.003	0.006	0.014	0.013	0.005	0.015	0.008	0.007	0.006	0.003	0.006	0.006
地域の比較的大き な病院	0.066	0.044	0.037	0.048	0.051	0.041	0.055	0.039	0.025	0.043	0.030	0.027	0.029	0.022	0.029	0.024
その他の病院	0.010	0.030	0.035	0.024	0.045	0.029	0.033	0.043	0.020	0.024	0.032	0.027	0.006	0.019	0.027	0.022
施術所	0.003	0.000	0.002	0.000	0.003	0.004	0.002	0.002	0.005	0.004	0.006	0.009	0.017	0.003	0.003	0.002
不明	0.003	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	0.003	0.000	0.000	0.002	0.001	0.000	0.006	0.000	0.003	0.011

* 平成 10 年度のみ

表 2：所得・年齢別の健康状態と医療利用状況（続き）

子供の年齢 In(父母の所得)	0-3 歳						4-8 歳						9-12 歳						13-15 歳					
	14- 15	15- 15.5	15.5- 16	16- 17	16- 17	16- 17	14- 15	15- 15.5	15.5- 16	16- 17	16- 17	16- 17	14- 15	15- 15.5	15.5- 16	16- 17	16- 17	16- 17	14- 15	15- 15.5	15.5- 16	16- 17	16- 17	16- 17
	0.17	0.18	0.20	0.21	0.21	0.21	0.20	0.21	0.22	0.22	0.22	0.22	0.13	0.17	0.18	0.17	0.17	0.17	0.12	0.13	0.14	0.14	0.15	0.15
何らかの通院中の傷病 通院の理由となった傷病	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
糖尿病	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
糖尿病以外の内分泌・ 代謝障害	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
精神・神経	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
眼	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
耳	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
循環器系	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性上気道炎・急性鼻 咽喉炎（かぜ）	0.05	0.06	0.06	0.07	0.07	0.07	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
アレルギー性鼻炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03
喘息	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
その他の呼吸器系	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
消化器系	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
歯	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.06	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
皮ふ・皮下組織	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03
筋骨格系	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
尿路性器系・泌尿生殖 系	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
外傷・損傷	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02
貧血・血液	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
悪性新生物（がん）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02

表 3：健康状態と医療利用状況の推移

データ年	1998	2001	2004	2007
主観的健康状態				
よい	0.270	0.250	0.268	0.261
あまりよくない・よくない	0.455	0.463	0.481	0.471
日常生活への影響*				
有無	0.036	0.048	0.046	0.043
不明	0.022	0.024	0.017	0.017
仕事・家事・学業への影響の有無*	0.010	0.014	0.013	0.012
3 日以上就床	0.049	0.087	0.079	
自覚症状				
何らかの自覚症状	0.210	0.254	0.257	0.256
全身症状・神経	0.049	0.056	0.054	0.059
眼	0.007	0.009	0.007	0.009
耳	0.007	0.008	0.008	0.007
胸部	0.002	0.001	0.002	0.003
呼吸器系	0.127	0.149	0.157	0.151
消化器系	0.025	0.032	0.028	0.039
歯	0.014	0.015	0.014	0.015
皮膚	0.050	0.062	0.059	0.061
筋骨格系	0.010	0.013	0.012	0.015
手足	0.004	0.002	0.003	0.004
尿路性器系	0.002	0.004	0.003	0.004
損傷	0.022	0.023	0.023	0.028
その他	0.012	0.012	0.013	0.015
何らかの通院中の傷病	0.172	0.186	0.195	0.183
通院の理由となった傷病				
糖尿病	0.001	0.001	0.000	0.000
糖尿病以外の内分泌・代謝障害	0.001	0.002	0.001	0.000
精神・神経	0.001	0.001	0.001	0.003
眼	0.001	0.001	0.002	0.012
耳	0.014	0.014	0.017	0.010
循環器系	0.004	0.005	0.003	0.004
急性上気道炎・急性鼻咽頭炎（かぜ）	0.029	0.027	0.026	0.022
アレルギー性鼻炎	0.026	0.025	0.030	0.033
喘息	0.021	0.024	0.026	0.019
その他の呼吸器系	0.009	0.008	0.008	0.007
消化器系	0.002	0.002	0.002	0.003
歯	0.032	0.035	0.038	0.027
皮膚・皮下組織	0.035	0.034	0.042	0.046
筋骨格系	0.001	0.004	0.004	0.003
尿路性器系・泌尿生殖系	0.002	0.001	0.000	0.002
外傷・損傷	0.010	0.012	0.009	0.011
貧血・血液	0.001	0.001	0.001	0.001
悪性新生物（がん）	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	0.023	0.030	0.000	0.022
3 か月以上の通院	0.093	0.109	0.102	

表 4：主観的健康状態の順序ロジット分析（7-15 歳のみ）

年齢	7-15 歳				7-9 歳				10-12 歳				13-15 歳			
観測数	15820				5414				5307				5099			
chi2	302.13				44.95				64.45				58.47			
P>chi2	0				0				0				0			
LR	-				-				-				-			
Pseudo R2	17900.8				5901.43				5948.66				6036.28			
	0.0084				0.0038				0.0054				0.0048			
	係数	標準偏差	有意水準		係数	標準偏差	有意水準		係数	標準偏差	有意水準		係数	標準偏差	有意水準	
所得対数値	-0.133	0.028	0.000		-0.164	0.051	0.001		-0.123	0.048	0.010		-0.123	0.047	0.009	
2001 年ダミー	0.081	0.039	0.038		0.064	0.068	0.348		0.092	0.067	0.172		0.083	0.067	0.214	
2004 年ダミー	-0.097	0.043	0.025		-0.104	0.074	0.159		-0.123	0.076	0.106		-0.062	0.075	0.413	
2007 年ダミー	-0.033	0.043	0.449		-0.150	0.076	0.047		-0.098	0.075	0.189		0.150	0.076	0.049	
8 歳ダミー	-0.021	0.064	0.746		-0.022	0.064	0.726									
9 歳ダミー	0.050	0.064	0.431		0.047	0.065	0.464									
10 歳ダミー	0.012	0.065	0.854													
11 歳ダミー	0.052	0.065	0.423						0.042	0.064	0.518					
12 歳ダミー	0.279	0.066	0.000						0.271	0.065	0.000					
13 歳ダミー	0.313	0.067	0.000													
14 歳ダミー	0.408	0.068	0.000										0.092	0.064	0.150	
15 歳ダミー	0.454	0.070	0.000										0.129	0.066	0.048	
男児ダミー	-0.024	0.030	0.423		-0.047	0.052	0.369		0.018	0.052	0.724		-0.046	0.052	0.374	
子供 2 人ダミー	-0.113	0.040	0.005		-0.008	0.083	0.922		-0.182	0.073	0.012		-0.117	0.062	0.061	
子供 3 人ダミー	-0.179	0.047	0.000		-0.102	0.090	0.255		-0.217	0.083	0.009		-0.188	0.079	0.017	
父親有ダミー	-0.206	0.237	0.384		0.232	0.391	0.553		-0.555	0.424	0.191		-0.103	0.431	0.811	
父親年齢	-0.004	0.004	0.347		-0.001	0.007	0.936		-0.002	0.007	0.747		-0.009	0.007	0.207	
母親年齢	0.018	0.005	0.000		0.018	0.008	0.023		0.010	0.008	0.258		0.026	0.009	0.002	
父親就業ダミー	0.513	0.152	0.001		0.020	0.274	0.941		0.692	0.278	0.013		0.700	0.242	0.004	
母親就業ダミー	-0.150	0.032	0.000		-0.183	0.054	0.001		-0.135	0.054	0.013		-0.131	0.056	0.020	
/cut1	-0.143	0.236			-0.236	0.390			-0.555	0.417			0.031	0.444		
/cut2	0.677	0.237			0.577	0.390			0.256	0.417			0.868	0.444		
/cut3	3.515	0.241			3.485	0.400			3.132	0.425			3.634	0.449		
/cut4	6.252	0.298			6.079	0.512			5.679	0.514			6.643	0.545		

注：主観的健康観は、よい：1、まあよい：2、ふつう：3、あまりよくない：4、よくない：5として数値化した。

表5：日常生活への影響の有無のロジット分析（7-15歳のみ）

	7-15 歳			7-9 歳			10-12 歳			13-15 歳		
観測数	15975			5452			5358			5165		
chi2	52.74			23.64			18.56			27.74		
P>chi2	0.0001			0.0506			0.1824			0.0154		
LogLikelihood	-			-			-			-		
Pseudo R2	2841.28			825.845			967.57			1031.24		
	0.0092			0.0141			0.0095			0.0133		
	係数	標準偏 差	有意水 準	係数	標準偏 差	有意水 準	係数	標準偏 差	有意水 準	係数	標準偏 差	有意水 準
所得対数値	0.030	0.072	0.679	0.212	0.143	0.138	-0.073	0.119	0.537	0.007	0.115	0.955
2001 年ダミー	0.324	0.103	0.002	0.215	0.186	0.248	0.338	0.174	0.052	0.401	0.176	0.023
2004 年ダミー	0.279	0.113	0.014	-0.013	0.211	0.952	0.166	0.198	0.402	0.606	0.185	0.001
2007 年ダミー	0.202	0.116	0.083	-0.163	0.228	0.475	0.130	0.199	0.516	0.575	0.189	0.002
8 歳ダミー	0.178	0.180	0.324	0.140	0.181	0.440						
9 歳ダミー	0.126	0.184	0.495	0.064	0.186	0.733						
10 歳ダミー	0.309	0.180	0.086									
11 歳ダミー	0.381	0.178	0.032				0.079	0.163	0.628			
12 歳ダミー	0.318	0.182	0.080				0.037	0.168	0.827			
13 歳ダミー	0.422	0.181	0.020							0.030	0.158	0.850
14 歳ダミー	0.447	0.184	0.015							0.143	0.158	0.367
15 歳ダミー	0.544	0.186	0.003							0.190	0.128	0.137
男児ダミー	0.248	0.078	0.002	0.304	0.149	0.041	0.261	0.134	0.051	-0.004	0.148	0.981
子供 2 人ダミー	0.067	0.103	0.517	0.451	0.267	0.091	-0.092	0.179	0.606	-0.269	0.203	0.184
子供 3 人ダミー	-0.142	0.124	0.253	0.279	0.287	0.330	-0.355	0.215	0.099	1.307	1.061	0.218
父親有ダミー	0.107	0.587	0.856	-16.493			1.157	0.921	0.209	-0.038	0.019	0.041
父親年齢	-0.006	0.011	0.540	0.031	0.019	0.104	-0.013	0.018	0.463	0.019	0.021	0.365
母親年齢	0.010	0.012	0.417	0.001	0.022	0.963	0.002	0.021	0.911	0.004	0.603	0.995
父親就業ダミー	-0.230	0.349	0.510	14.778	0.794	0.000	-0.900	0.448	0.045	-0.248	0.136	0.069
母親就業ダミー	-0.144	0.082	0.080	-0.047	0.152	0.756	-0.120	0.139	0.391	-3.725	1.078	0.001
定数	-3.866	0.612	0.000	-4.821	1.097	0.000	-2.552	1.029	0.013			

表 6：就床日数の順序ロジット分析（7-15 歳のみ、平成 10 年・13 年・16 年のみ）

	7-15 歳			7-9 歳			10-12 歳			13-15 歳		
観測数	12763			4349			4257			4157		
chi2	99.01			38.62			42.95			31.45		
P>chi2	0			0.0002			0			0.0029		
Loglikelihood	-			-			-			-		
Pseudo R2	3677.37			1370.68			1170.72			1117.47		
	0.0133			0.0139			0.018			0.0139		
	係数	標準偏差	有意水準	係数	標準偏差	有意水準	係数	標準偏差	有意水準	係数	標準偏差	有意水準
所得対数値	-0.121	0.062	0.051	-0.113	0.107	0.291	-0.079	0.110	0.476	-0.158	0.105	0.134
2001 年ダミー	0.603	0.085	0.000	0.445	0.138	0.001	0.870	0.154	0.000	0.523	0.154	0.001
2004 年ダミー	0.487	0.093	0.000	0.434	0.146	0.003	0.534	0.177	0.003	0.487	0.168	0.004
8 歳ダミー	-0.068	0.133	0.608	-0.043	0.133	0.748						
9 歳ダミー	-0.303	0.142	0.033	-0.265	0.144	0.065						
10 歳ダミー	-0.153	0.141	0.279									
11 歳ダミー	-0.308	0.147	0.036				-0.156	0.151	0.303			
12 歳ダミー	-0.334	0.150	0.026				-0.191	0.154	0.215			
13 歳ダミー	-0.243	0.149	0.103									
14 歳ダミー	-0.125	0.149	0.401									
15 歳ダミー	-0.428	0.166	0.010							0.089	0.149	0.550
男児ダミー	-0.017	0.070	0.802	-0.096	0.113	0.394	0.047	0.124	0.707	-0.247	0.165	0.136
子供 2 人ダミー	-0.111	0.095	0.240	-0.184	0.178	0.301	0.048	0.181	0.793	0.021	0.126	0.868
子供 3 人ダミー	-0.139	0.109	0.203	-0.203	0.192	0.289	-0.009	0.206	0.967	-0.098	0.150	0.516
父親有ダミー	0.677	0.557	0.224	1.938	0.811	0.017	-0.672	1.275	0.598	-0.061	0.191	0.751
父親年齢	-0.022	0.009	0.020	-0.041	0.015	0.008	-0.008	0.017	0.640	-0.397	1.061	0.709
母親年齢	0.002	0.011	0.823	0.000	0.017	0.984	-0.008	0.020	0.688	-0.001	0.018	0.935
父親就業ダミー	0.167	0.370	0.653	-0.373	0.541	0.490	1.249	1.020	0.221	0.016	0.020	0.442
母親就業ダミー	-0.024	0.073	0.744	-0.100	0.117	0.392	0.046	0.131	0.724	0.112	0.608	0.854
/cut1	1.881	0.533		1.650	0.830		2.514	0.998		0.035	0.139	0.803
/cut2	3.899	0.539		3.628	0.840		4.503	1.008		2.275	1.037	
/cut3	4.952	0.552		5.193	0.881		5.086	1.017		4.388	1.049	
/cut4	6.197	0.599		6.494	1.009		6.146	1.057		5.551	1.078	
										7.259	1.254	

注：就床日数は、0 日：1、1-3 日：2、4-6 日：3、7-14 日：4、15 日以上：5 として記録されている。

表7: 自覚症状の有無のロジット分析

	何らかの自覚症状	全身症状・神経	眼	耳	胸部
観測数	29263	29263	29263	29263	29263
chi2	344.19	153.51	156.7	52.53	59.76
P>chi2	0	0	0	0	0
Loglikelihood	-	-	-	-	-
Pseudo R2	16002.3	6088.83	1284.64	1273.69	389.034
	0.0106	0.0124	0.0575	0.0202	0.0713
	係数	係数	係数	係数	係数
標準偏差	標準偏差	標準偏差	標準偏差	標準偏差	標準偏差
有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準
所得対数値	-0.006	-0.031	0.050	0.123	0.223
2001年ダミー	0.250	0.152	0.069	0.173	0.376
2004年ダミー	0.249	0.119	0.075	0.199	0.388
2007年ダミー	0.249	0.216	0.075	0.191	0.382
0歳ダミー	-0.020	0.126	0.147	0.616	1.140
1-3歳ダミー	0.448	0.704	0.094	-1.725	-0.585
4-6歳ダミー	0.242	0.139	0.095	-1.838	-1.090
10-12歳ダミー	-0.105	0.156	0.098	-1.277	-0.100
13-15歳ダミー	-0.105	0.611	0.096	0.483	1.564
男児ダミー	0.069	-0.082	0.052	0.751	1.664
子供2人ダミー	0.044	0.028	0.201	-0.352	-0.468
子供3人ダミー	-0.082	-0.040	0.052	0.029	0.016
父親有ダミー	-0.117	-0.426	0.417	-0.061	-0.106
父親年齢	-0.006	-0.001	0.007	-0.019	-12.026
母親年齢	0.007	-0.009	0.008	-0.008	-0.055
父親就業ダミー	0.253	0.177	0.299	0.015	0.042
母親就業ダミー	-0.010	-0.050	0.055	14.081	13.818
定数項	-1.610	-2.445	0.393	-0.030	-0.236
			1.016	0.144	0.282
			0.000	0.981	2.004
			0.000	0.000	0.002

表 7：自覚症状の有無のロジット分析（続き）

	呼吸器系			消化器系			歯			皮ふ			筋骨格系*		
観測数	29263			29263			29263			29263			27676		
chi2	719.97			75.16			170.85			169.33			504.48		
P>chi2	0			0			0			0			0		
Loglikelihood	-			-			-			-			-		
Pseudo R2	11715.5			3940.46			2151.92			6352.4			1690.22		
	0.0298			0.0094			0.0382			0.0132			0.1299		
	係数	有意水		係数	有意水		係数	有意水		係数	有意水		係数	有意水	
	標準偏	標準偏		標準偏	標準偏		標準偏	標準偏		標準偏	標準偏		標準偏	標準偏	
	差	差		差	差		差	差		差	差		差	差	
所得対数値	-0.070	0.033	0.032	-0.009	0.066	0.895	-0.157	0.090	0.079	0.113	0.051	0.025	0.004	0.097	0.967
2001 年ダミー	0.182	0.045	0.000	0.272	0.093	0.003	0.034	0.128	0.789	0.258	0.067	0.000	0.251	0.145	0.084
2004 年ダミー	0.216	0.048	0.000	0.154	0.104	0.137	-0.037	0.141	0.793	0.184	0.074	0.013	0.245	0.160	0.124
2007 年ダミー	0.184	0.049	0.000	0.479	0.097	0.000	0.024	0.141	0.863	0.232	0.074	0.002	0.458	0.153	0.003
0 歳ダミー	0.236	0.088	0.007	0.082	0.186	0.659	-3.509	1.011	0.001	0.246	0.125	0.048			
1-3 歳ダミー	0.726	0.057	0.000	0.417	0.124	0.001	-1.995	0.279	0.000	0.356	0.085	0.000	-2.541	0.608	0.000
4-6 歳ダミー	0.383	0.054	0.000	0.136	0.122	0.263	0.069	0.134	0.608	0.215	0.080	0.007	-1.568	0.393	0.000
10-12 歳ダミー	-0.271	0.061	0.000	0.182	0.125	0.147	-0.276	0.147	0.061	-0.269	0.090	0.003	0.873	0.202	0.000
13-15 歳ダミー	-0.535	0.069	0.000	0.504	0.127	0.000	-0.321	0.160	0.045	-0.531	0.102	0.000	1.907	0.193	0.000
男児ダミー	0.154	0.034	0.000	-0.120	0.068	0.078	-0.233	0.098	0.017	-0.027	0.050	0.592	-0.120	0.107	0.260
子供 2 人ダミー	0.117	0.043	0.006	-0.051	0.083	0.540	-0.028	0.134	0.834	-0.049	0.063	0.435	-0.083	0.131	0.527
子供 3 人ダミー	-0.109	0.053	0.040	-0.157	0.104	0.132	0.100	0.150	0.504	-0.155	0.078	0.045	-0.180	0.164	0.270
父親有ダミー	-0.327	0.276	0.236	0.050	0.546	0.927	0.196	0.746	0.793	0.301	0.400	0.452	-0.011	0.851	0.990
父親年齢	0.000	0.004	0.999	-0.010	0.009	0.256	-0.014	0.013	0.262	-0.008	0.007	0.253	-0.007	0.015	0.633
母親年齢	0.007	0.005	0.214	-0.010	0.011	0.357	0.016	0.015	0.274	0.010	0.008	0.223	0.004	0.017	0.804
父親就業ダミー	0.302	0.203	0.137	0.088	0.388	0.820	0.147	0.511	0.774	-0.048	0.278	0.862	0.037	0.517	0.943
母親就業ダミー	-0.017	0.036	0.625	-0.074	0.073	0.310	0.048	0.103	0.644	-0.081	0.053	0.130	0.075	0.117	0.521
定数項	-1.945	0.257	0.000	-3.126	0.521	0.000	-3.187	0.727	0.000	-3.891	0.398	0.000	-5.070	0.851	0.000

* 0 歳児の罹患率が 0 だったため、サンプルから 0 歳児を除いた。

表 7：自覚症状の有無のロジット分析（続き）

観測数	手足			尿路性器系*			損傷		
	係数	標準偏 差	有意水 準	係数	標準偏 差	有意水 準	係数	標準偏 差	有意水 準
観測数	29263			27676			29263		
chi2	92.51			160.57			154.85		
P>chi2	0			0			0		
Loglikelihood	-			-			-		
Pseudo R2	558.405			536.561			3201.24		
	0.0765			0.1302			0.0236		
所得対数値	0.036	0.207	0.861	0.375	0.204	0.066	0.208	0.078	0.007
2001 年ダミー	-0.492	0.296	0.097	0.507	0.286	0.077	0.088	0.103	0.394
2004 年ダミー	-0.252	0.309	0.416	0.230	0.337	0.495	0.091	0.113	0.420
2007 年ダミー	0.138	0.281	0.623	0.652	0.305	0.033	0.276	0.109	0.011
0 歳ダミー	-1.330	1.080	0.218				-2.951	0.590	0.000
1-3 歳ダミー	-1.134	0.621	0.068	-2.998	1.061	0.005	-0.913	0.154	0.000
4-6 歳ダミー	-0.338	0.483	0.483	-0.564	0.451	0.211	-0.351	0.124	0.005
10-12 歳ダミー	0.643	0.404	0.112	0.726	0.380	0.056	-0.030	0.119	0.798
13-15 歳ダミー	1.688	0.381	0.000	1.965	0.359	0.000	0.215	0.123	0.081
男児ダミー	-0.552	0.219	0.012	-1.562	0.270	0.000	0.322	0.078	0.000
子供 2 人ダミー	-0.082	0.254	0.748	0.006	0.269	0.983	-0.194	0.099	0.050
子供 3 人ダミー	-0.681	0.362	0.060	-0.089	0.324	0.784	-0.099	0.115	0.388
父親有ダミー	-13.711			-12.979	1.293	0.000	0.274	0.644	0.670
父親年齢	0.002	0.029	0.959	-0.078	0.030	0.010	-0.019	0.010	0.073
母親年齢	-0.014	0.035	0.700	-0.023	0.033	0.479	-0.002	0.012	0.891
父親就業ダミー	14.490	1.394	0.000	14.855			0.241	0.456	0.597
母親就業ダミー	-0.178	0.223	0.425	-0.185	0.230	0.422	-0.108	0.081	0.184
定数項	-6.166	1.813	0.001	-6.331	1.657	0.000	-4.634	0.618	0.000

表 8：通院中の傷病の有無のロジット分析

	通院の有無		糖尿病*		糖尿病以外の内分泌・代謝 障害	精神・神経		眼
観測数	29263		27676		29263	29263		29263
chi2	246.99		12.86		16.93	43.18		140.61
P>chi2	0		0.6832		0.4592	0.0005		0
Loglikelihood	-		-		-	-		-
Pseudo R2	13801.4 0.0089		136.283 0.045		275.419 0.0298	327.769 0.0618		620.037 0.1018
	係数	標準偏差	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準
		標準偏差	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準
		標準偏差	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準	有意水準
所得対数値	0.089	0.030	0.003	0.488	0.290	0.247	0.312	0.208
2001 年ダミー	0.110	0.040	0.006	0.532	0.393	0.441	0.643	0.501
2004 年ダミー	0.146	0.043	0.001	1.059	0.461	0.497	0.839	0.490
2007 年ダミー	0.063	0.045	0.155	1.060	0.767	0.397	0.004	0.428
0 歳ダミー	-0.240	0.084	0.004	0.951	0.903	1.117	0.408	0.580
1-3 歳ダミー	0.089	0.053	0.091	0.932	0.598	0.731	0.157	0.375
4-6 歳ダミー	0.189	0.048	0.000	0.928	0.597	0.596	0.442	0.295
10-12 歳ダミー	-0.277	0.051	0.000	0.899	0.644	0.506	0.365	0.310
13-15 歳ダミー	-0.476	0.056	0.000	0.765	0.612	0.484	0.006	0.391
男児ダミー	0.148	0.030	0.000	-0.153	0.330	0.298	0.124	0.198
子供 2 人ダミー	0.046	0.039	0.236	-0.128	0.421	0.363	0.713	0.250
子供 3 人ダミー	-0.080	0.047	0.087	-0.366	0.552	0.474	0.584	0.292
父親有ダミー	-0.158	0.235	0.501	-15.656	-1.113	-15.268		1.154
父親年齢	0.001	0.004	0.775	0.030	0.059	0.007	0.843	-0.020
母親年齢	0.010	0.005	0.043	0.009	-0.040	-0.019	0.671	0.024
父親就業ダミー	-0.058	0.160	0.719	13.575	-1.023	14.592	0.000	-0.293
母親就業ダミー	-0.031	0.032	0.334	-0.669	0.525	-0.476	0.127	0.149
定数項	-2.307	0.235	0.000	-8.951	-5.384	-4.069	0.053	-10.205

* 0 歳児の罹患率が 0 だったため、サンプルから 0 歳児を除いた。